

ボランティア活動などをとおして福祉社会実現のための 生徒たちが行えることなどを学習する実践

富山市立岩瀬中学校 濱谷一男

1 はじめに

第4章「福祉社会と財政」は中学校学習指導要領「(2) 国民生活と経済」の「イ 国民生活と福祉」に関連する内容である。指導に際して、生徒にとって身近な生活をできるだけ教材としてとりあげ、学習内容が単に知識理解のみに終わることがないように留意した。

「生活から始まり、教材を学習し、そして再び生活へ」というコンセプトで授業を進めたいと考えた。

2 指導事例の展開

(1) 身近なボランティア活動から

①どの学校でも、「総合的な学習の時間」など関連づけてボランティア活動や奉仕活動を展開している。私が勤務している学校でも、生徒会活動として年々さまざまな企画が展開されている。海浜清掃、公園清掃、福祉施設訪問、保育所訪問、海外への物資輸送など体験を重視した活動がたくさんある。これらの活動の自己評価を必ずアンケートとして生徒からとり、それを蓄積しておく。または、ある程度の期間において、それらの活動についての思いや感想などを

ノートに記録させる。

②教科書のp.78～87までの中で、学習するうえでのキーワードを教師が選び、それについての調査を行った。今回は、少子高齢化、介護保険、年金、バリアフリー、社会保障制度という語句を知っているか。知っているものについては、その内容を簡単に答えさせるような事前調査とした。少子高齢化、介護保険、年金、バリアフリーについては約80%以上の生徒が知っているが、社会保障制度という語句については16%以下であった。また、説明までできた語句としては少子高齢化とバリアフリーがもっとも多く、それぞれ約70%以上の生徒が内容を把握していると判断された。

生徒の実態を事前調査等やノートからの観察などで理解したうえで、教材を使用して学習することとした。

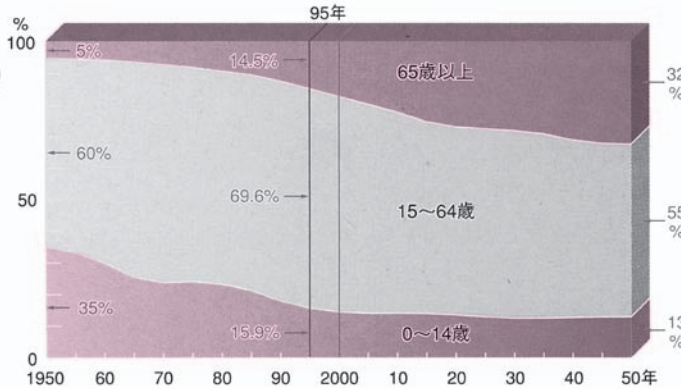
(2) 教材の学習

帝国書院『中学生の公民（最新版）』p.78～87を生徒に通読させ、その中で疑問に思ったことや調査したいことをノートに記録させ、それをもとに各自の学習課題を設定させた。次に、生徒各自の課題を教師が類型化し、次の授業計画を立てた。

| 学習内容 | おもな学習活動 | おもな学習活動 |
|------------------|---|---|
| 1. 少子高齢化について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化の現状を資料から読み取る。 ○少子高齢化の理由を資料から把握する。 ○少子高齢化の問題点を考え、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・帝国書院「中学生の公民」p.78の資料などから高齢化と少子化が進んでいることを理解させる。 (下記参照) ・各家庭での状況をもとに少子化、高齢化の問題点を考えさせる。 |

1. 1. しょうしこうれい 少子高齢社会への対応

2000年以降は
予想なのよ。



2050年には
ぼくは何歳かな。



① 日本の年齢別人口構成

<厚生統計要覧 平成11年版>

| 国名 | 年 | 男 | 女 |
|--------|-----|------|------|
| 日本 | '60 | 65.3 | 70.2 |
| 日本 | '98 | 77.2 | 84.0 |
| スウェーデン | '96 | 75.9 | 81.2 |
| イギリス | '96 | 74.3 | 79.5 |
| フランス | '96 | 74.0 | 81.9 |
| アメリカ | '96 | 73.1 | 79.1 |
| 韓国 | '91 | 67.7 | 75.7 |
| ブラジル | '96 | 64.1 | 70.6 |
| ロシア | '95 | 58.3 | 71.7 |

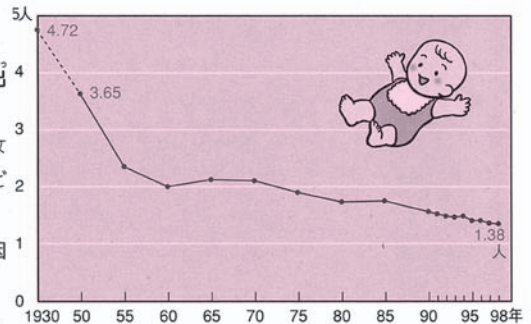
② 平均寿命の比較 <厚生統計要覧 平成11年版, ほか>

少子高齢社会になった

生む数は急速にへって、かつては4人がふつうだったのに、いまでは1人か2人になっています。こうして日本は少子高齢社会の時代をむかえたのです。

③ 日本の合計特殊出生率 <厚生統計要覧 平成11年版, ほか> 女性が一生の間に生む子どもの数。

出生率の減少の原因を考えてみましょう。

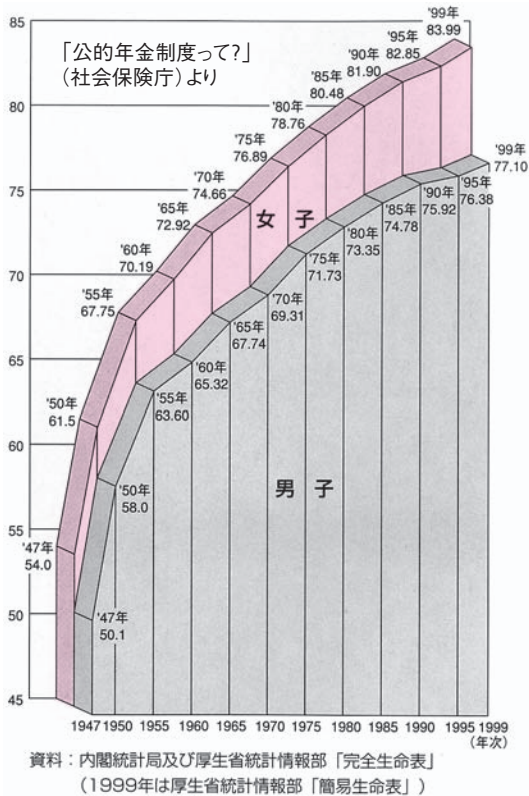


帝国書院『中学生の公民 (最新版)』p.78

| 学習内容 | おもな学習活動 | おもな学習活動 |
|---------------------|---|---|
| 2. 介護保険制度 | <ul style="list-style-type: none"> ○新しく導入された「介護保険制度」について帝国書院「中学生の公民」p.79「介護保険制度の導入」から理解する ○社会保障制度の中で介護保険は、社会保障の中に位置することを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険がどうして必要なのかを考えさせる。 ・帝国書院「中学生の公民」p.86の資料②「日本の社会保障制度」を参照する。 |
| 3. 年金から考える社会保障制度の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○社会保障制度の中で年金は、社会保障の中に位置することを確認する。 ○年金の種類を学習する。 <p><制度面：国民年金・厚生年金・共済組合></p> | <ul style="list-style-type: none"> ・帝国書院「中学生の公民」p.86の資料②「日本の社会保障制度」を参照とする。また、社会保障が予算の面でも高い比率を占めていることを確認する。 |

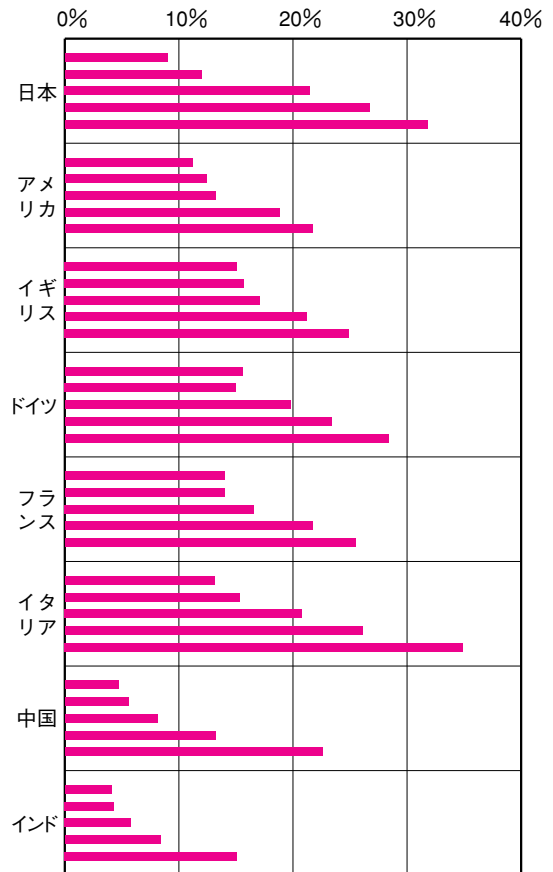
| | | |
|-------------|---|-------------------------------|
| | ＜支給面：老齢・障害・遺族＞ | |
| 4. 「福祉社会」再考 | ○資料「主要国の65歳以上人口割合」をもとに、今後の社会の状況及び福祉社会の課題について話し合う。 | ・他国に比べても急速に高齢化が進んでいくことを確認させる。 |

日本の平均寿命の伸び



主要国の65歳以上人口の割合

(上から1980年、1990年、2010年、2025年、2050年)



(UN "World Population Prospects, 1998)

(3) 学習を踏まえボランティア活動を見直す

終末の指導として、今後のボランティア活動をどのような形で進めればよいかを考えさせるため感想文を書かせた。また、中学生としてできるボランティア活動や地域としてできるボランティア活動などのアイデアを考えさせた。

3 おわりに

生徒の中には、社会保障制度の財政面での問題点に関心をもち、学習を進めようとする生徒もいたが、次時の学習単元で詳しく学習するように指

示した。

また、社会保障制度の学習を進める生徒の中には、年金や介護保険のしくみがむずかしくて理解できないと感想をもらす生徒もいた。

生徒の追究の仕方や理解の度合いには個人差があり、一斉指導だけではなかなか思うような展開をはかることができなかった。しかし、関連資料（教材）を読み取っていくなかで、時事問題、そして自分たちが生きていく将来について関心をもって生活しようとする姿勢は高まったと考えられる。